

京都大学地理学談話会

会 報

第24号



2013

[目 次]

寄稿

地理学にたよる悦び	陳 芳恵 (1968年修)	1
「アフリカ駐在」に備えた4年間	広木 拓 (2006年卒)	5

秋季地理学談話会の報告 7

〈OB交流会〉 講師：犬塚 泉 (1989年卒), 久保 智祥 (2003年卒)	7
〈講演会〉 「古代日本の歴史地理から圏郭都市の日欧比較歴史地誌へ」	7
戸祭 由美夫 (1969年卒)	

研究室便り 11

〈総合博物館における地図資料等の利用について〉	11
〈外国人研究者～訪問された方～〉	12
〈地理学教室への寄贈図書～2012年度～〉	12
〈研究室の動静〉	15
〈3回生の自己紹介〉	
〈2012年度の実習旅行〉	
〈学部卒業生・院生の進路〉	
〈院生の研究状況の報告〉	
〈2013年度講義題目〉	

事務局から 18

〈地理学談話会2012年度会計報告〉	18
〈訃報〉	19
〈住所不明者についてお願い〉	19
〈オープンキャンパス：2012年度の報告と2013年度のお知らせ〉	20
〈2013年度秋季地理学談話会のお知らせ〉	21
〈地理学教室所蔵の写真資料について〉	21
〈2013年京都国際地理学会議開催記念 「地図 温故知新」のご案内〉	21

※表紙写真：2013年3月12日，総合博物館地理資料部門を見学中の京都大－復旦大学ワーク
ショップ参加者の方々

寄稿

地理学にたよる喜び

陳 芳恵(1968年修)

年の流れに随って高齢公民 (Senior Citizen) に分類される。つい一人になり、そして迷ってしまった。まず宗教からさぐった。それは「心」だ。peace of mind, 心を安らかにすれば、ということでしょう。それは何処にある、何処からより早く見つかると思った。まず病氣病人等、雰囲気の重い処から脱出し、この変遷をよく見たいと、無意識に歴史地理で学んだ思考方向に進みました。

故郷に戻り、台湾中心の埔里盆地の山・街・人々等を、昔のものと比べながら歩きました。終戦後日本人公務員の帰国で、父が勤めていた学校の校長先生がいた。大人の話しでおぼえたのは、船で3日かかると。台湾との距離はそれが始めだった。

小さい山中では、いつもより広い大きい処に関心をもつ。中学以降の教師は、ほとんど大陸の出身で、歴史と地理の教師は、彼等の大陸での生活や逃亡の途上景観を伝えてくれた。その中に含む深い不安・郷愁と多い情報は、はじめて海の働く機能を深く感じた。

その次は日本へ行こうと思った。なにかを見つかるでしょう。桃園空港から大阪空港の距離は2時間のみ。1966年の寒

い春の日、台北松山空港から羽田空港へは4時間近くだった。羽田から東京市内のYWCAも遠い。その数日後は東海道線で大阪におもむいた。それは第一回目遠距離鉄路の旅だった。一日の時間は長いけど、後の新幹線より線路沿いの景色がよく見えて、台湾に比べてより広い幅と景観の変化は、見事だった。そして、その先に京都大学がいたのは、知らないまま、途上の景色で喜んだ。

2012年の6月、京都大学の庭を歩いた。いい気になり、「関西観光」のツアーに一日の独自のコースにした。その夜は京都タワーホテルに宿り、翌日の朝早くタワーにのぼった。学生時代そこにのぼりたいと、駅からタワーをながめたが、料金を払う気がなかった。上って見ると建物の後方の東本願寺、その他数多い寺院建物に、おもわず仏教とつながりいろいろが、脳裡に浮かんで、シルク・ロードを思いだした。

駅前から百万遍行きのバスに乗った瞬間、若い時代に方向・距離・地名等をおぼえるしこみは、地理学を選んだ得だと、一人で喜んだ。路面電車の通学は百万遍の一つ前の駅だった。駅名は変ったが、京都大学の校門にたどりついた。昔通りの時計台は時を指しているよう、また時を無視しているように見える。と言うのは、その瞬間に学生時代の先生や同窓が一挙に動きはじめた。静かな朝に思いながら歩いて、旧地理教室の下から、にぎやかな時を思いだした。そうだ、ある日、教室全員が御所の庭で野球のプレーイが

あった。日本は野球の国だから、皆上手だと期待したが、皆疎遠に見えて、ハンサムな球技がなかった。そうだ、隠岐の島の巡検だった。藤岡先生は船内の低い中央部に眠ってた。大の字で愉しく、もし自分が男性である場合、そのまねをしましょう。島の旅館での風呂も、印象深いことが浮んできた。人数の多い男子学生の風呂場が隣にいて、大声で話しているのを聞くと、先生と風呂の場でなにかを論じていた。それは日本か或いは京都大学地理教室の特有か、師道を孔夫子と同一ランクにおく、その時台湾の視点では、その違いが強くて、後にもよく师徒関係のことで思いだした。

地理学教室の新居を見ようと歩いた。開いている教室に入り、若い先生に自己紹介をすると、さっそく向い側のドアをノックし、田中先生に紹介してくれました。意外に、田中先生は30年も越えて、この台湾からの留学生をおぼえていた。感動な再会となりました。後に若い先生は米家泰作先生と、名刺でわかりました。田中先生から明代山西辺境防衛の研究をうかがい、また抜刷をいただいて、勉強の雰囲気満喫して、新しい地理教室を離れた。暖かい母校です。

2012年9月に、Los Angeles からシルク・ロード (Silk Road) に行くことを決めました。ツアー (Tour) は地理学の巡検と等しく、体力と行先の知識を要する。西側の新疆から始まる、16日の計画はパミール高原 (Pamirs) の一部を含むので、自分に対する挑戦とした。28人のグルー

プは、8人は英語のみ、一行が上海空港に着いた時、30分前に北京から来たガイドさんは、2種類の言葉で応接し、16日間各地点のガイドと組んで、能率的だった。

上海から新疆の首府ウルムチ (Urumqi, 烏魯木齊) の5時間は、アメリカ横断の景観と対照した。あるアメリカ地理学者の言葉によると、中国はアメリカのような大平原がないので、農業生産は比べにならない……と。自分の目で見ると、他のことを考えた。丘陵や高山は平野と違う役わりをはたしている。乾燥地帯の丘陵の間に緑と聚落がある。高山の隔離の不便で、戦乱から避けることができて、56の民族のある国がある。

ウルムチは6百万の大都市、学生時代に習った旧名の「迪化」と違う、意外に繁盛で近代的な都市でした。午後はすぐ天山々脈の天池の観光が始り、バスは麓の入口まで、それからのりかえて、小型バスで海拔1928mの天池にのぼる。冷えて清らかな高山の湖は、5千mの山嶺にかこまれ、心を静る。

翌日は吐魯番 (トルファン) に向った。高速道路は戈壁灘 (ゴビ) と風力発電の柱の中を通る。

吐魯番盆地は維吾爾語 (ウイグル) で最低地と意味する。6.97万km²の盆地の中、4000km²は海平面より低い、熱い乾いた地域。35℃の気温は年に百日つづく。また異常気温が生じやすい処で、50℃近くや地面が83℃になった記録があった。

九月中旬の午後は夏のように、目の前

に横たわる、赤い火焰山の熱さで、西遊記の作者が孫悟空に、神力のある扇子をあてた考えは、この地域は漢代からよく知られていることを示すと感じた。その次の「高昌故国」の城跡は漢代の駐在軍隊の開墾にできた城、唐の玄奘の印度への旅は、ここで一月の招待を得て、彼が経を解いた仏龕のみ飾る高台は、のこっていた。

熱い乾いた地域は、天山山脈の水を巧みに地下に引いて、住める処に変えた。それは坎兒井（カレーズ）博物館の見学で、掘り方と分布及び地下の実物の展示から、充分に学んだ。

ここでシルク・ロードの重要性と繁栄を、深く理解することができた。

翌日は新疆博物館の特有の展示、数千年の歳月を耐えたミイラ、「楼蘭美女」・漢代の将軍・その他、数多い沙漠の乾燥でのこした、多民族のミイラ。感慨をおこす静かな観客の行列に従って逃げだした。

続きは航空機で塔克拉玛干沙漠を眺めながら、西南部の喀什に移った。喀什は維吾爾語「喀什格爾」（カシュガル）の短縮で、漢代の張騫の西域での駐在で始まり、シルク・ロードの新疆での中路と南路の合流点のオアシス（緑州）で、発展を続けた。今も交通が便利で、パキスタン（Pakistan）とむすぶ、Pamirs 高原を越える G314 国道がある。市の 80 %が維吾爾族で、回教の雰囲気はいたる処に見つかる。

ここで見たのは艾提尕爾回教寺院、清

の乾隆皇帝の妃、香妃の家族墓地、大巴扎（バザー）と牛羊等家畜の交易の場、また地方特色の食事を味わい、維吾爾族の楽器演奏・歌・舞等も見物しました。

最も忘れられないのは、喀什から Pamirs 高原の G314 国道だった。河谷に沿って漸次高い処に行く、途中に見た山の規模は、これまで経験しなかった。その圧迫感と冷えこみは、深く身にしみこむ。それでも標高 3600m の喀拉庫爾湖まで上った。近くに見えるのは標高 7500m 越える公格爾山と慕士塔格山の雪の積った景色、風の強い空気は、高山病にならないよう、スピードをおとして歩いた。酸素袋にたよる者もあった。途中の谷の向かい側の巨石に窪みがあって、それが昔、唐の玄奘がインドに行く際、そこに夜を過したと言う。現地の遊牧民の夏の居所も石畳みで、高さ 2 m 幅 3－4 m の小屋でした。玄奘の Pamirs 高原の旅は大変と思う。

旅は航空の便で甘肅省の敦煌へ、ここから全く違う観光になった。近代化の点数がのびて、気楽になって、陽関の遺跡、鳴沙山、月牙泉、莫高窟の仏教壁画等の観光の外、駱駝に乗って若かえりした。夜は敦煌劇院で北京から来た、高水準の音楽劇を見て楽しかった。中学時代の地理教師は、「西出陽関無故人」と言う詩でシルク・ロードを教えてくれた。西から陽関の東へ入った自分は、その自然と人文の差をわかった。

敦煌と嘉峪関の間はバスで、途中で農家にとまり、お手洗の借用のかえしに、その家の生産したメロンを味わった。農

業地は嘉峪関まで続いて、明代最も西の据点を嘉峪関に置いたことも想像について。

今の嘉峪関は現代化の工業都市、人口 12 万の新興都市である。明代の嘉峪関は祁連山と嘉峪山の間、最も狭い処に立地し、天下の雄関と名づけられた。1372 年に設けられた城関規模と造りは、見事でした。馬と馬車も上れる城壁の上層は、河西走廊のシルク・ロードを守るよい関所だったが、それから西の地域を無視したことは、シルク・ロードの旅の危険性、つまり政治、戦争、自然環境等の障害があり、またその後明代の新しい政権、明成祖の鄭和のインド洋への海上シルク・ロードの派遣があったでしょう。

嘉峪関から蘭州は夜中の寝台列車に乗った。満員の駅と列車は、国内での観光も賑っているようです。蘭州まで 648km。翌朝に着いて、すぐ劉家峡水庫に向った。1974 年に完成した水庫は、第一次 5 年計画の成果で、つかれたまま「快艇」に乗って、1 時間で炳靈寺石窟に着いた。西晋に始った仏像は鮮卑族等、遊牧民の貢献もあった。

蘭州は思うより大都市です。黄河の濁流は市を通る。黄河の第一橋の鉄橋は観光客の集りとなって、黄河を見ながら、「母親河」と語った中学教師とつながった。それは水か、黄土か、或は歴史に堆積した人間の働きか？ 黄河の流れて行く処に興味が生じてきた。

最後は蘭州と 250km の距離の青海省西寧市を尋ねた。黄河の源流により近ずい

た、シルク・ロード南路の古い都市である。黄河と湟水が築き上げた盆地状の処で、青康蔵高原の崖の下のような地域でした。蘭州と鉄路（青蔵鉄路）と高速道路・航空等で結んで、便利のせい、西寧で「地陪」（local Guide）を勤める 2 人は、蘭州に出迎いに来て、車内で英語と北京官話を交替で案内しました。英語で語った女性 Guide は藏族で、この旅で発音が最も正しい方によろこばれた。

蘭州から西寧の間は、常に河沿いにバスが走り、華北と東北に見られる、「大棚栽培」の農地が見えた。降水量の問題かその他か、屋根が単一斜面や平に近いのが多く、それを追いながら西寧に着いた。博物館は藏族（Tibet 族）をよく解明してくれた。その後はバスで青海湖に向った。海拔 3196m の高原の青海湖に、登るに時間がかかった。途中に唐の時代、吐蕃の王に嫁ぐ文成公主の記念像が、道の交叉点に立っていた。

青海湖 4200 km²の鹹水湖は確かに見事でした。ことにかすんだ青蔵高原の境界が見えないので、海のように見えた。湖畔の農業用地は道路沿いに続いて、波止場近辺まで。波止場には観光地に見られる施設のほかに、藏族仏教の象徴の如意塔が置かれて、それをまわって礼拝する、多くの藏族があった。

最後に見たのは藏族仏教聖地「塔爾寺」。そこは格魯派の創立者の宗喀巴が生れた処で、かなり広い寺院と僧侶の研修場であるが、長い時代にこつこつ建てたせい、小さい仏院をつぎつぎと歩いた。目

についたのは寺を出ての蔵医院が2ヶ所、向きあっていた。高原の特殊な環境は、漢方薬の貴重薬材の産地だと思いだした。それも南路の存在した原因でしょう。

行ける処を歩いて、心になにを注いだと、帰えりの機上で考えた。まず地理学を身につけて幸せだと思った。それで広い多彩な外へ踏みだすと、見るもの見えるものが多い。行く先の土地と人々に関心を持って、客観的にさぐると、なにかを見つけて、悦びを取り戻し、地理学をたよりにしてよかった。

※編集から：陳芳恵氏が手書きでお送りいただいた原稿の文章をそのまま掲載しました。ただ、漢字は日本で現在使用されているものに改め、句読点表記は日本語として読みやすくなるよう、少し手を加えましたが、原文の雰囲気や極力そこねないよう、最小限に留めました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

「アフリカ駐在」に備えた4年間

日本貿易振興機構 (JETRO)

広木 拓(2006年卒)

ナイジェリアに初めて降り立ったのは2011年5月。人で溢れる空港を出て、護衛付きの送迎車に乗り込む。まだ早朝のため、辺りはまだ暗い。が、窓の外を見ると、街は既に通勤者が詰め込まれた乗り合いバスで溢れ返っている。この光景

を当たり前に思うようになるのか。これから始まる駐在生活への期待と不安の入り混じった感情が胸を交錯する。

私は高校時代から、自分が知らない世界に住んでみたいと夢見てきた。これは中学時代、ニュージーランド (NZ) に住んでいたことが発端だ。日本にいと、NZは「羊が多い、大らかな国」というイメージが一般的かもしれないが、そのような側面ばかりではないことを日々の生活で強く感じていた。それを機に、NZに限らず、各国・地域のイメージは、実は実態とはかけ離れていることもあるのではないかと考え始めたのである。

誤解を恐れずに言えば、私の大学生活は、将来的なアフリカ駐在を見据えた準備との位置づけであった。自分の中での設定を仮に「アフリカ駐在」としたのは、恥ずかしながら、頭でっかちな発想からである。旅行するだけでは、あくまでも外部からの視点でしか物事を見ることができないため、イメージを払拭できるほどの体験は難しいのではないかとの思い込み。また、生活環境が厳しそうなアフリカには、他の地域よりも若いうちに見ておいた方が良さだろうという、まさにイメージを基にして判断したのだ。

大学時代には、3つのことを実行に移した。まず、フランス語の勉強。アフリカはフランスの旧植民地だった国も多いことから、フランス語を話せるようになれば、自分の渡航先の選択肢がかなり広がると考えた。

2つ目は、自動二輪の運転免許取得だ。

アフリカへ行ける手段として、高校時代に思いついた青年海外協力隊の募集要項を確認すると、小型二輪免許が必要とされている国もいくつかある。したがって自動二輪に乗ることが、生活に必須の地域もあるのかもしれないと思ったのだ。

そして最後の 3 つ目が、地理学教室への所属である。大学への入学時から、地理学という響きに惹かれていた。実際には、特定フィールドの地域研究というよりも、各国・地域でみられる社会の現象をある切り口で分析するという側面が強い学問であることを知る。もちろん私がかじったのは、あくまでも地理学の片鱗だけであることは百も承知である。しかし、「人口移動」「時間距離」「空間／場所」「アイデンティティ」等々、アフリカの社会を色々な視点で見る上で参考となるキーワードや発想を学ぶことができた。

達成度合いはともかく、上記 3 つの準備を経て私は大学を卒業し、日本企業による海外進出の側面支援を掲げる独立行政法人の日本貿易振興機構（ジェトロ）に就職。そして社会人 6 年目でナイジェリアに赴任した。

それでは実際のアフリカ駐在を通じて、同地域のイメージを払拭し得る体験をできているか。答えはイエス&ノーである。ナイジェリアはアフリカ諸国の中でも、治安の悪さや汚職の蔓延などで悪名高いが、これらは単なる偏見ではない。残念ながら実態の一面である。では弱肉強食の世界かというところ、そればかりではない。助け合いの精神が根付いた義理と人情の

世界でもあるのだ。外国人には多額の賄賂を要求しつつ、貧しい人には惜しみなく分け与える。そんなことがあり得るのも、ナイジェリアには日本とは異なる独自の善悪の基準を持っているからのようだ。

さて、憧れていたアフリカ駐在で、大学時代の 3 つの準備がどれだけ生かされているかということ、正直なところ、ナイジェリアではフランス語を普段使うわけではないし、自動二輪に乗る生活もしていない。実は、地理学を通じて触れた様々な切り口で社会を見るという視点が、一番役立っているかもしれない。

自分が知らなかった世界を知ることが、自分自身の価値観を再認識するきっかけにもなる。初めての地に降り立つ時に抱く期待と不安の感情を、これからも重ねて行きたい。



ナイジェリア・ラゴス国際空港内にて

(2013年 5 月)

→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑←↓→↑
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

秋季地理学談話会の報告

2012年10月27日、文学部新館第1・2講義室において、秋季地理学談話会を開催し、卒業生や在学生の皆様が参加されました。講演をしてくださった戸祭由美夫氏（1969年卒）はじめ、OB交流会で講師としてお話しくださった卒業生の方々に厚く御礼申し上げます。

OB交流会と講演会の報告をします。

<OB交流会>

卒業生の犬塚 泉氏（長崎新聞，1989年卒）と久保智祥氏（朝日新聞，2003年卒）のお二人が講師を務めてくださいました。在学当時の思い出や社会に出るまでの体験，社会に出てからの歩みなど，エピソードを交えながら，アドバイスだけでなく温かい励ましの言葉もいただきました。活発な質疑や意見交換があり，楽しい交流の機会となりました。



OB交流会の様子

講師の方々と司会者（朝倉 慎人氏（D

1）と旅家法子氏（4回生）との間で打ち合わせして，進行内容も企画していただきました。ありがとうございました。



懇親会にて

<講演会>

「古代日本の歴史地理から囲郭都市の日欧比較歴史地誌へ」

戸祭 由美夫（1969年卒）

歴史地理学関係の卒業生として地理学談話会で話（講演）をするようにとの要請をいただいたので，私の今までの経験が後輩諸君に幾分かでもご参考になればと思い，奈良女子大学定年退職記念に編集・刊行された『奈良女子大学地理学・地域環境学研究報告 VII』に収録の略歴・研究業績目録と拙稿の別刷を配布するとともに，各種の具体的な資料類を提示しつつ，以下のような内容のお話をさせていただきました。

1. 研究者としての前史

昭和40年に京大文学部に入学した。当

時、1，2 回生は教養部所属で、ドイツ語重点履修クラスを選んだので、L3 クラスでした。

当時の教養部人文地理学研究室の先生方は、教授が藤岡謙二郎先生と西村睦男先生、助手が 1 年次は足利健亮先生、2 年次は小林健太郎先生でした。私が受講した地理関係の受講科目は、1 年次に人文地理学Ⅰ(藤岡謙二郎先生)、2 年次に人文地理学Ⅱ(山澄 元先生)、人文地理学Ⅲ(藤岡謙二郎先生・西村睦男先生)、人文地理学ゼミナール(藤岡謙二郎先生・西村睦男先生)でした。他に中学・高校の社会科の教職科目として、文学部の専門基礎科目(序説)も 2 年次に多く受講しました。

また、教養部の人文地理学研究室の先生方が顧問として指導して下さっていたクラブである地理同好会に入会しました。このクラブの活動に参加して、2 回生の共同地域調査では嵯峨野の商店街調査を担当し、そのレポートは『北白川と嵯峨野 一大都市周辺地域の人文地理的モノグラフー』(藤岡謙二郎・西村睦男共著、地人書房、1968(重版:改定増補)に成果が取り込まれています。また、3 回生の共同地域調査レポートは、『CONTOUR XIX—答志島特集号』(京都大学地理同好会会報、1968)にまとめることができました。

これらの授業やクラブ活動を通して、金田章裕・高橋誠一の両君と親しくともに行動することとなり、以来現在まで親しい友人として交際してきたことは、私にとっての貴重な財産とありがたく思っ

ています。

なお、教養部時代に地理学以外で複数の授業に出て、ご研究室にも伺ったり、臨地講演に参加させていただいた先生は、担任でドイツ語の佐野利勝先生のほか、日本史の上田正昭先生と国語(国文)学の渡辺 実先生です。とりわけ渡辺先生には、文学部専門課程進学後も先生の上智大学ご転出まで、ご研究室のみならずご自宅にも伺うなど、教養部の古き良き教師・学生関係を続けさせていただきました。

3 回生となって文学部の専門課程に進学し、人文地理学専攻へ所属することになりました。同期の三回生は 7 名でしたが、その後大学院修士課程、同博士課程に進んでからも同期だったのは上記の高橋・金田の両氏だけです。学部進学当時の人文地理学教室の先生方は、織田武雄教授、水津一朗助教授、武藤 直助手の 3 先生で、織田先生は修士課程を終える際に定年ご退官になり、水津先生が博士課程 2 回生の折に教授にご昇任になりました。私は水津先生のご推薦を得て、博士課程 2 回生を終えた段階で、鳥取大学教養部に就職しました。それまでの学部 2 年・大学院 4 年の計 6 年間にわたって数多くの授業に出席しましたが、中でも一番時間をかけて予習したのは、学部に進学した最初の年(3 回生)の水津先生によるドイツ専門書講読(Schmithüsen の "Was ist Landschaft" など)と藤岡先生の演習です。私は京都大学在学時の 8 年間のほぼ全ての講義ノートと学生便覧(講義題目)を今も大切に持っていますが、今回

はそれらの中で、当時のノート講義中心の授業の例として、織田先生の概論(西アジアの農牧業)と研究(西洋地図学史)、水津先生の研究(ラインの歴史地理、西欧中世の農地区画)、藤岡先生の3回生演習と研究(古代日本の歴史地理)、日比野丈雄先生の研究(中国歴史地理)、浮田典良先生の研究(農業の歴史地理)などを持参して、閲覧に供しました。

2. 古代歴史地理を専攻する

卒業論文では、地理・日本史・日本文学への興味から、「古代出雲の歴史地理学的考察」を作成しましたが、国府や郡家の位置比定に、地籍図のほか、空中写真をも利用したことが当時としては珍しかったといえるでしょう。その試問教官は織田・水津・藤岡の3先生でした。幸いに大学院修士課程に進学でき、M1の夏に卒論作成時に不十分だった日本古代史の論文を読み、秋に卒論の一部をもとに『人文地理』へ投稿して掲載してもらいました。(21・5,1969.10)。雑誌の奥付が秋なのは、大学紛争で編集・発行が遅延していたためです。

修士論文では、卒論を投稿する過程で特に古代日本の村落や地方行政単位に関心を抱いたので、出雲・備中・播磨・肥前・大和の各地を現地調査し、また「寧楽遺文」「正倉院文書」「平安遺文」などの刊行史料や平城京出土の木簡などを利用して「古代日本の村・里・郷 ―その歴史地理学的研究」を提出しました。試問教官は織田・水津・藤岡・岸の4先生でした。その内容のうち、郷里制関係の

部分は『人文地理』24・2(1972.04)に、郷と水利の関連の部分は『地理学評論』46・8(1973.08)にそれぞれ投稿し、掲載していただきました。また、古代の村関係のうちで、播磨国の村関係の部分に関しては、鳥取大学に就職後、科研費を得て現地調査を行い、後に『地域』6(1981.02)に載せました。

古代の歴史地理学を学んでいたため、藤岡先生関係の仕事が多くあります。当時両親が住んでいた三重県中部の郡家と条里について、藤岡先生の大学院博士課程でのレポートをもとに、鳥取大学就職後に追加調査して『歴史地理学会会報』88(1976.11)に掲載してもらったのをはじめ、藤岡先生の研究代表・総括のもとで以下のような調査・研究をしました。一つは、高橋・金田の両氏と相談し、桑原公德・服部昌之の両先生にもご了承を得て、当時知られていた条里分布をランクづけ表示したことで、その成果は『日本歴史地理総説 古代』の「開発」の項目に生かされました(私の担当は山陰・山陽・南海 1975.07)。もう一つは古代交通路の調査で、私は豊前・豊後を担当し、大宰府と宇佐八幡宮を結ぶ太宰府道が古代の官道であることと(『古代日本の交通路Ⅳ』1979.01)、豊前国府が2度にわたって変遷した可能性が高いことを指摘しました(藤岡先生の定年ご退官記念の論文集『歴史地理研究と都市研究』1978.04)。

さらに、鳥取大学教養部に5年間在職していましたので、鳥取市史の条里調査を依頼され、『新修 鳥取市史 第1巻』

(1983.03)の第3章第1節5.条里制遺構(488-533頁)で、図30(うち、地区別の地割図21, 小字界図5, 総図2など)を作成し、千代川の両岸で条里プラン3と一町方面プラン2の存在を指摘するとともに、千代川東岸部における条里プラン2と一町方面プラン1の相互のずれと古代交通路との関連を指摘しました(水津先生の定年ご退官記念の論文集『人文地理学の視圏』1986.04)。

なお、院生時代に非常勤講師を務めた同志社女子中・高の木下良先生に随時ご教示を受けたことと、大学院博士課程の折に古代史の岸俊男先生の授業で極めて歴史地理的なご研究(古道の歴史)をうかがったことを特記しておきたいと思います。

すでに鳥取大学在職時から、特に奈良女子大学文学部への転勤後は、歴史地理学以外の多方面の調査・研究に携わり、とりわけ、地理学文献情報処理に関して多くの報告をしましたが、ここでは割愛させていただきます。

3. 囲郭の日欧比較歴史地誌

歴史地理学の中で囲郭に興味をもつようになったのは、矢守一彦先生の学部3回生及び大学院での授業(研究)と、藤岡先生の研究代表・総括のもとで萩を担当したことにあります(『城下町とその変貌』1983.10)。

その後、奈良女子大学地理学教室の武久義彦先生ほかメンバーを代表者とする科研費報告書でのレポートで、大和の陣屋町、南山城の環濠集落、伏見城下町、

福島県の城下町、鳥取城下町などを担当執筆することとなって、歴史地理学の対象時期が古代から近世に移っていきました。

その過程で、近世の城下町・囲郭の分布の中で、幕末の特異な囲郭である五稜郭の西洋式星形囲郭に私の関心が集まり、以下、幕末の他の蝦夷地陣屋、五稜郭のルーツたる欧米の星形囲郭、そして囲郭の比較歴史地誌の研究へと進展していったわけです。

五稜郭をはじめとする幕末蝦夷地の囲郭については、北海道ご出身の足利先生への追悼論文集(『地図と歴史空間』2000.08)に概要を、五稜郭の跡地利用に絞って『歴史地理学』44・1(2002.01)に発表しました。次いで、ベネルクスの囲郭都市への3度(1993, 1995, 1998年)にわたる現地調査の成果を勤務先の奈良女子大学の紀要類(『人間文化研究科年報』12, 1997.03, 同13, 1998.03)や客員研究員を務めていた広島大学総合地誌研究資料センターの『地誌研年報』7(1998.03)に発表し、さらに科研費による沖縄のグスクへの共同調査などをも踏まえて、一応のまとめを『地誌研年報』15(2006.03)に英文で報告しました。(なお、上述の奈良女子大学地理学教室メンバーによる科研申請を継続する形で私が代表を務めた1994~1997年度「ユーラシアにおける都市囲郭の成立と系譜に関する比較地誌学的研究」及び2001~2004年度「中国文明のフロンティアゾーンにおける都市的集落の発生と変容—その比較地誌学的研究」

の2件の科研費報告書のなかに上記の拙稿の一部が収められています。)

これらの私個人による調査・研究をもとに、2005~2008 年度科研費を得て「北海道・東北各地所蔵の幕末蝦夷地陣屋・囲郭に関する絵地図の調査・研究」という歴史地理学的・地図学史的共同調査研究を組織しました。その成果は、研究分担者5名と研究補助2名のご協力を得て、十和田市立新渡戸記念館所蔵(新渡戸十次郎旧蔵)の盛岡南部藩関係の絵図(『歴史地理学』51-1,2009.01), 弘前市立弘前図書館所蔵の弘前津軽藩の箱館千代ヶ台陣屋関係の絵図, 盛岡市中央公民館所蔵の盛岡南部藩関係の絵図(『研究教育年報(奈良女子大学文学部)』6, 2009.12, 『奈良女子大学地理学・地域環境学研究報告』VII, 2010.03 今回その別刷を配布)などに関する個別資料の書誌的報告のほか、報告書中の幕末蝦夷地関係絵図一覧49頁に結実させることができました。

現在は、そのような基礎的研究を踏まえて、2010~2013 年度の科研費を得て、共同研究「文化遺産としての幕末蝦夷地陣屋・囲郭の景観復原—GIS・3次元画像ソフトの活用」を組織し、各地の研究分担者・連携研究者・研究協力者のご協力のもとに、自然地理学・建築学的研究をも加えた総合的な景観復原と建物復元を目指しているところです。

なお、幕末の蝦夷地や西欧の囲郭都市に関する各種の地図類や現地写真の画像は、時間の都合で用意した全てを映写できませんでしたが、当日のために持参し

た各種の具体的な資料類を展示し、不十分ながら参加者にご説明することができました。



講演会



講演会の後で、学生時代の講義ノートなどを見せていただく。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

研究室便り

<総合博物館における 地図資料等の利用について>

地理資料部門の助教は2008年度より不

在が続いておりますが、当面の代替措置として、地理資料担当の教務補佐員に地図・地理資料の管理にあたってくださいしております。（勤務日：火～金、勤務時間：9:00 - 17:00（除く、昼休み））

総合博物館地理資料部門に収蔵されている地図資料等の閲覧・撮影などを希望される方は、お手数ですが、下記の窓口までご連絡のうえ、所定の手続きをお取りくださいますよう、お願いいたします。

京都大学総合博物館 事務室

電話：075-753-3272

＜外国人研究者～訪問された方～＞

2012年7月30日から8月30日まで、アンナ・A・ノーウィコワ（Anna Andreevna Novikova）さん（Institute of Asian and African Studies, Moscow State University（ロシア）、院生（博士課程））が教室に滞在され、日本17 - 18世紀の学者の地理観：西川如見（1648 - 1724）について資料収集調査を行われました。

2013年3月12 - 13日、博士後期課程学生（中文・中哲・地理）による京都大学－復旦元大学東アジア人文研究のワークショップが開催されました。12日の交流会では、復旦大学からの一行に総合博物館の地理資料部門を見学いただきました。13日の研究会では、地理実習室を会場に、熱心な発表と討議が行われました。

＜地理学教室への寄贈図書

～2012年度～＞

昨年度、地理学教室にご寄贈いただいた図書の一覧です（雑誌・定期刊行物等は除く）。寄贈くださいました方々に厚く御礼申し上げます。庄垣内正弘先生（京都大学名誉教授（言語学））より、中国や西域の地図や少数民族に関する貴重な図書を30冊近く寄贈していただきました。特に記して御礼申し上げます。これらの図書は、文学研究科図書館または地理学共同研究室に配置し、学生ならびに教室スタッフの研究・教育に活用させていただいております。

過去にいただいた図書も含めて、これらの寄贈図書は、皆様にもご利用いただけるようにしておりますので、どうぞご活用ください。

（図書）

- ・白寿を意識するに非ざれど／吉備人出版
- ・京都府立大学文化遺産叢書 第5集：丹後・宮津の街道と信仰
- ・地域環境の地理学／朝倉書店
- ・ゆれ動く世界―思い出の会議と旅から―／風都舎
- ・文化的景観 生活となりわいの物語／日本経済新聞出版社
- ・地域格差と地域政策：ドイツとの比較において／古今書院
- ・世界市民の地理学／晃洋書房
- ・人口減少時代の国土ビジョン：新しい国のかたち『二層の広域圏』／日本経済新聞社
- ・中国交通図冊／地図出版社

- ・ 黑龙江省地图册／哈尔滨地图出版社
- ・ 新疆维吾尔自治区地图册／西安地图出版社
- ・ 内蒙古自治区地图册／中国分省系列地图册／中国地图出版社
- ・ 甘肃省地图册／中国分省系列地图册／中国地图出版社
- ・ 新疆维吾尔自治区交通图册／新疆维吾尔自治区测绘局
- ・ 中国地图册／地图出版社
- ・ 最新アトラス・データで見るロシア/CIS5／外務省ロシア・CIS問題研究会
- ・ 中华人民共和国地图集／地图出版社
- ・ アジア歴史地図／平凡社
- ・ 中国古代北方民族文化史 民族文化卷／黑龙江省出版社
- ・ 中國地名語源 zhongguo dimingyuyuan／江蘇科學技術出版社
- ・ 敦煌古俗与民俗流变/中国民俗探微／河海大学出版社
- ・ 中国民俗探微/敦煌巫术与巫术流变／河海大学出版社
- ・ 中国少数民族／民族出版社
- ・ 西域史地釋名／中山大學出版社
- ・ 中国人口地理 上册／华东师范大学出版社
- ・ 汉维日本地名词典／新疆大学出版社
- ・ 中国少数民族事典／東京堂出版
- ・ 中国少数民族文化大辞典 东北，内蒙古地区卷／民族出版社
- ・ 西夏物质文化/西夏学译丛／民族出版社
- ・ 西域探秘 外国探险家和中国西域／中国文联出版社
- ・ 外国探险家西域游记／新疆美术摄影出版社
- ・ 阿坝藏族自治州概況 《阿坝藏族自治州概況》编写组[編]／四川民族出版社
- ・ 考古学が語るシルクロード史：中央アジアの文明・国家・文化／平凡社
- ・ 中國民族／艺术出版社
- ・ 中国边疆民族地区文物集萃／上海辞书出版社
- ・ 中国少数民族史大辞典／吉林教育出版社
- ・ 歴史GISの地平：景観・環境・地域構造の復原に向けて／勉誠出版
- ・ 歴史研究の最前線14 信仰と儀礼の歴史学（総合研究大学院大学文化学研究科日本歴史研究専攻）
- ・ ボツワナを知るための52章／明石書店
- ・ 野生と環境／岩波書店
- ・ 中国山地 上・下／未来社
- ・ 名古屋大学環境学研究科教員の見た東日本大震災／名古屋大学大学院環境学研究科
- ・ 中国の高新技术産業地域と企業：北京市中関村を中心に／徳山大学研究叢書18
- ・ 日本資本主義と農業／岩波書店
- ・ 日本農業の変容と地域構造／大明堂
- ・ 日本資本主義と農村開発／法律文化社
- ・ 照葉樹林文化と日本／くもん出版
- ・ 地域構造と地域問題：中国・四国地方を中心に／大明堂
- ・ 場所の現象学：没場所性を越えて／筑摩書房
- ・ 現代の地理学—人文地理・経済地理—／廣文社
- ・ 東京大都市圏：地域構造・計画の歩み・将来展望／彰国社
- ・ 都市と広域／鹿島研究所出版会
- ・ 都市・地域の経済学／日本評論社
- ・ 都市の日本：所作から共同体へ／筑摩書房
- ・ 交通学説史の研究／成山堂
- ・ 西南日本の経済地域／ミネルヴァ書房
- ・ 都市と経済のニュートレンド：地域国際化への戦略／日本評論社
- ・ 奥三河山村の形成と林野／名著出版（愛知大学総合郷土研究所研究叢書7）
- ・ 現代日本の森林木材資源問題／汐文社
- ・ フルセット型産業構造を超えて／中公新書

- ・勇気ある選択：ポストフォーディズム・民主主義・エコロジー／藤原書店
- ・ポストフォーディズム：レギュレーション・アプローチと日本／大村書店
- ・社会資本整備の便益評価：一般均衡理論によるアプローチ／勁草書房
- ・最適都市を考える／東京大学出版会
- ・大阪タオル工業史／大阪タオル工業組合
- ・新・秋山記行／高志書院
- ・帝国日本の植民地支配と韓国鉄道／明石書店
- ・現代日本の資源問題／古今書院
- ・女性就業と生活空間 仕事・子育て・ライフコース／明石書店
- ・京都の歴史災害／思文閣出版
- ・大阪府立狭山池博物館 平成24年度特別展 中世狭山池の水下世界
- ・地図でみる東日本の古代 律令制下の陸海交通・条里・史跡／平凡社
- ・アンダルシアを知るための53章／明石書店
- ・占領軍が写した終戦直後の佐世保／芸文堂
- ・地図でみる佐世保：古地図と古い写真でみる佐世保の変遷／芸文堂
- ・佐世保市 改訂 小字地図／佐世保市立図書館
- ・受動喫煙の環境学／世界思想社
- ・歴史と環境—歴史地理学の可能性を探る—／花書院
- ・歴史人口学からみた結婚・離婚・再婚／麗澤大学出版会
- ・立地ウォーズ：企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」／新評論
- ・京都府立大学文化遺産叢書 第7集 熊野の信仰と景観 一宗教遺産学の試み
- ・*Glaciological and Geomorphological Researches in Patagonia: 2003-2009 with Summary of GRPP Activities for 1983-2009* (2012)

- ・*Morphometric Property and Flood Equation-Lesson from the Bago River Basin, Myanmar*／TERRAPUB, Tokyo (雑誌)
- ・茨城地理 第13号
- ・エネルギー史研究 no. 27
- ・えりあぐんま 第18号
- ・エリア山口 第42号
- ・お茶の水地理 第51号
- ・オーストラリア研究紀要 第38号
- ・外邦図研究ニューズレター No. 9
- ・海洋地質図no. 74～no. 78
- ・観光科学研究 第5号—第6号
- ・関西学院史学 第40号
- ・京漁連だより 第431号—第435号
- ・空間・社会・地理思想 第15号
- ・研究論叢 2012 LXXIX—LXXX
- ・駒澤地理 第48号
- ・しま no. 229—no. 232 (第57巻第4号—第58巻, 第3号)
- ・人文学部紀要 第32号 (神戸学院大学人文学部)
- ・石炭研究資料叢書 no. 33
- ・総合資料館だより No. 171—No. 173 (京都府立総合資料館)
- ・測量 第80号 (日本測量協会関西支部)
- ・地域学研究 第25号 (駒澤大学応用地理研究所)
- ・地域研究 vol. 52, no. 1, 2 (立正地理学会)
- ・地域研究年報 34 (筑波大学人文地理学・地誌学研究会)
- ・地域と社会 第15号 2012. 11 (大阪商業大学比較地域研究所)
- ・地學雑誌 vol. 121, no. 2—no. 6, vol. 122, no. 1
- ・地質調査研究報告 vol. 62 no. 11/12
- ・地図情報 vol. 32 no. 1—no. 4
- ・地理 5月号—12月号 (2012), 1月号—4月号 (2013)

- ・地理学研究 第40号 (駒澤大学大学院地理学研究会)
- ・地理学評論 vol. 85, no. 3-6, vol. 86, no. 1-2.
- ・地理学報告 第114号 (愛知教育大学地理学会)
- ・地理研究 20号 (法政大学大学院)
- ・地理誌叢 第54巻第1号 (日本大学地理学会)
- ・地理歴史人類学論集3号 (琉球大学法文学部人間科学紀要別冊 (琉球大学法文学部))
- ・東京大学人文地理学研究 第20号
- ・東北学院大学論集 歴史と文化 第48号
- ・東北大学理科報告 第7輯 (地理学) vol. 58nos. 1/2
- ・東北文化研究所紀要 第44号 (東北学院大学)
- ・砺波散村地域研究所研究紀要 第29号
- ・奈良大地理 第18号
- ・日本海地域の自然と環境 第19号 (福井大学地域環境研究センター研究紀要)
- ・人間科学 第27号-第28号 (琉球大学法文学部人間科学科紀要)
- ・人間文化 H&S 30 (神戸学院大学人文学会)
- ・広島大学現代インド研究 空間と社会 Vol. 2
- ・文化史學 第68号 文化史学会 (同志社大学・文化史学会)
- ・法政地理 第44号
- ・待兼山論叢 日本学篇 46 (大阪大学大学院文学研究科)
- ・山形大学紀要 (社会科学) 第43巻第1号-2号
- ・立命館地理学 24
- ・早稲田大学大学院教育学研究科紀要 別冊第20号-1
- ・2011 JAPANESE PROGRESS IN CLIMATOLOGY
- ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS Supplementary Issue no.44 2012
- ・AFRICAN STUDY MONOGRAPHS, vol.33 no.1-no.4
- ・ASIAN AND AFRICAN AREA STUDIES, no.11-2, no.12-1
- ・COSMICA AREA STUDIES, 2012 XLII

- ・GEOGRAPHICAL REPORTS OF TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY, No.47 2012
- ・MEDITERRANEAN WORLD, XXI 2012
- ・SOUTHEAST ASIAN STUDIES, vol.1, no.1-no.3
- ・SOUTHEAST ASIAN STUDIES, vol.50, no.1-no.2
- ・TSUKUBA GEOENVIRONMENTAL SCIENCES, vol.7 2011/ University of Tsukuba

(報告書)

- ・2011年度 地域調査実習報告書「兵庫」・「愛知」(金沢大学人文学類地理学教室)
- ・2011年度地理学フィールドワーク報告書 滋賀巡検 (お茶の水女子大学地理学コース)
- ・会津地方の地域調査 2011実習報告書／東北大学理学部地圏環境科学地理学教室
- ・関西大学地理学研究室実習報告書(36)－(37)
- ・地域調査報告13-14 (九州大学文学部地理学研究室)
- ・ちりレポ 第10号 (城北学園)
- ・臨地研究報告 第7号 一掛川の地域調査－ (東京学芸大学教育学部地理学研究室)

<研究室の動静>

教室の事務は、引き続き三上純子さんをお願いしております。

本年度は、大学院博士後期課程2名、修士課程4名、学部4回生11名、3回生12名、大学院聴講生2名、学部聴講生1名が在学中です。

<3回生の自己紹介>

本年度は、新たな顔ぶれとして、3回生12名を迎えました。皆さんに簡単に自己紹介していただきます。

大澤 佑太郎

初めまして、新3回生の大澤佑太郎と申します。出身地は兵庫県芦屋市です。大学ではアーチェリー部に所属しています。地理学に関してはまだ右も左も分からない状態ですが、これから頑張って勉強していきたいと思っています。

岡田 眞太郎（9月末まで休学中）

岡本 梓

3回生の岡本梓です。高校の頃から地理に興味があり、迷わず地理学専修を選びました。2回生時にはGISや実習旅行等、地理学だからこそできることを色々と経験できましたが、これからは自ら研究していく段階なので、少し緊張しています。災害をテーマに研究していきたいと思っています。よろしくお願いします。

清水 沙紀

石川県小松市出身の清水沙紀です。地理学では、国際移動や外国人労働者について学びたいと思っています。旅行の楽しみはご当地の食べ物と地酒を美味しくいただくことです。多読ではありませんが読書好きです。特に伊坂幸太郎さんは尊敬する作家です。よろしくお願いいたします。

立元 圭

新3回生の立元圭（たちもとけい）です。出身は西南日本の外帯です。鹿児島県です。九州が好き過ぎて、昨年受講した実

習の調査地を佐世保市にした張本人はこの僕です。これからも九州を愛して愛して愛していきたいと思っています。

谷本 涼

大阪府高槻市在住の谷本涼と申します。都会と田舎、「どっちもたかつき」を標榜する街で生まれ育ちました。思いついては旅に出るのが体質なので、旅行好きの方など、お声をかけていただけると嬉しく思います。よろしくお願いします。

仲田 志織

今年から地理学教室でお世話になります。新3回生の仲田志織です。せっかくこの教室に入ったからにはどこかへ巡検に出かける機会を増やしていきたいところですが出不精なのでたしてどうだか。漫画を描いたり語学をかじったりします。よろしくお願いします。

野口 峻哉

地理学専修新3回生の野口峻哉です。海外を旅行するのが好きで、地理に興味をもったので、この専修を選びました。研究したいテーマはまだはっきりとしていませんが、世界の文化や都市について関心があります。それではこれからよろしくお願いします。

橋詰 奈央

文学部3回生の橋詰奈央です。長野県の自称第3の都市、上田市出身です。実家は冬では午後2時に日没するほどの山に

囲まれた田舎にあります。京都市内を散策することと電車を乗り継いで色々な所に行くことが好きです。どうぞよろしくお願いします。

林田 雄介

文学部3回生の林田です。地理学の分野としては、都市地理学や人口地理学などに興味があります。ゆくゆくは観光活動や交通など人間の移動・生活に関連する内容を研究したいと思っています。若輩者ですが、どうかよろしくお願いします。

山本 功

ヤマモトイサオと申します。地図大好き少年だった私は、地理学者を志し京大文学部に入学したものの、入学直後にわけもなく志を失い、右往左往したあげくに結局ここに導かれました。体育会自転車競技部と京都大学討論会という英語ディベートのサークルに所属していますが、どちらもすでに挫折しています。広島に生まれ、広島で育ち、京都という外の空気に触れ、平和とはなんなんだろうと考える日々です。よろしくお願いします。

米田 尊

米田尊（よねだたける）と申します。夏はライフセーバーとして南紀白浜で過ごしています。海や山など、自然が好きなので、そういう分野の研究をしたいと思っています。よろしくお願いします。

〈2012年度の実習旅行〉

2012年度は、10月22～25日まで、長崎県佐世保市において、2回生・3回生の計13名が調査を行い、報告書を作成しました。

〈学部卒業生・院生の進路〉

* 学部卒業生

久保田 彰	大阪大学大学院国際公共政策研究科
須藤 梢	
井出 健人	文学研究科（修士課程）
北野 彰子	
佐野 春樹	りそな銀行
旅家 法子	射水市役所
土江 博範	毎日新聞社
富久保 晴彦	東海旅客鉄道株式会社
長尾 拓磨	株式会社オープンハウス
前田 真寿実	京阪電気鉄道株式会社
松村 晃宏	西日本旅客鉄道株式会社
森 理紗	株式会社シティ・コム
森下 裕基	新日鐵住金株式会社

* 修士課程

岩橋 涼	文学研究科（聴講生）
外賀 雄太	株式会社パソナ
小河 泰貴	文学研究科（聴講生）

〈院生の研究状況の報告〉

今年度までの院生の研究状況を報告します。以下は、閲読を経た論文のリストです。

D3 網島 聖

・明治後期地方都市における商工名鑑的

「繁昌記」の出版—山内實太郎編『松本繁昌記』を事例に一, 史林, 93-6, 119-144 頁 (2010)

- ・近代における同業者町の存続とその意義—明治・大正期の大阪道修町と医薬品産業を事例として一, 人文地理, 64-2, 123-141 頁 (2012)

<2013年度講義題目>

* 講義 (系共通科目) *

小林致広・石川義孝 人文地理学概説

* 特殊講義 *

教授 小林致広 資源利用の地理学
 教授 石川義孝 現代日本における
 高齢者の居住地選択
 教授 田中和子 空間行動の生涯変動
 に関する分析とその諸問題
 准教授 米家泰作 地理的「知」の
 歴史地理学
 人環教授 小島泰雄 中国農村の生活空間研究
 地球環境学堂教授 小方 登 地理情報
 ・衛星画像の処理・分析の基礎
 理学部准教授 堤 浩之 地形学
 講師 生田真人 都市開発の歴史と地理
 1・2
 講師 木村義成 地図と地理情報
 講師 友澤和夫 新興大国インドの社会
 経済発展と空間構造
 講師 鈴木康弘 自然地理学からみた
 防災論
 講師 滝波章弘 地域・空間・文化
 について考える
 ※ (演習 / 20 世紀学科目と共通)
 講師 上杉和央 戦争の記憶の現在 (前
 期) / 景観の 20 世紀 (後期)

* 演習 I —地理学研究法—*

小林致広・石川義孝・田中和子・米家泰作

* 演習 II —4 回生演習—*

小林致広・石川義孝・田中和子・米家泰作

* 講読 *

教授 小林・石川 英語地理書講読
 教授 田中和子 ドイツ地理書講読
 文学研究科教授 小山 哲 フランス
 地理書講読
 人文研助教 小野寺 史郎 中国地理書
 講読

* 地理学実習 *

田中和子・米家泰作

* 大学院演習—地域の諸問題—*

小林致広・石川義孝・田中和子・米家泰作

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

事務局から

<地理学談話会2012年度会計報告>

(2012 年 4 月 1 日 ~ 2013 年 3 月 31 日)

【資金会計】

<収入>

年会費	145,000
寄附金	0
利子	53
前年度繰越金	374,042

計	519,095

<支出>	
運営への振替	134,729
郵便振替手数料	7,240
次年度への繰越	377,126

計	519,095

【運営会計】

<収入>	
資金会計からの振替	134,729
秋季懇親会会費	48,000
春季懇親会会費	103,600

計	286,329

<支出>	
秋季懇親会	45,562
講師3名交通費	51,500
OB交流会経費	2,000
春季論文発表会経費	103,600
会報・名簿等印刷費	5,000
通信・文具等費	77,767
弔電・供花等	900

計	286,329

<訃報>

前回の会報以降、次の方々がお亡くなりになりました（お亡くなりになったとのお知らせをいただいた方を含みます）。
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（確認分、括弧内は卒業年、敬称略）
岩田 慶治 （1946 卒）

岡橋 圭四郎	（1951 卒）
柿本 典昭	（1952 卒）
小島 泰三	（1947 卒）
桜井 庸也	（1955 卒）
佐々木 高明	（1955 修）
氷見 方治	（1955 卒）

<住所不明者についてお願い>

以下の会員の住所が不明です。ご存じの方は、談話会事務局までご一報ください。（数字は卒業年、敬称略）

安福 伸光	（1997 卒）
池内 麟太郎	（1973 卒）
石角 強	（1970 卒）
石橋 弘嗣	（2006 卒）
石原 大嗣	（1997 卒）
石原（林）美歩	（1995 卒）
石村 裕輔	（1992 卒）
今井 平八	（1944 卒）
岩部 敏夫	（1991 卒）
上田 直人	（2009 卒）
氏家 真紀子	（2001 卒）
江崎 健治	（1992 卒）
遠藤 元	（1996 卒）
遠藤 正雄	（1978 卒）
太田 隆文	（1997 卒）
大野 宏	（1992 卒）
大山 晃司	（1995 卒）
岡本 靖一	（1967 卒）
岡本 美津子	（1987 卒）
興津 俊之	（1991 卒）
小口 稔	（1991 卒）

小野寺 伴彦 (2000 卒)
 楓 雅之(泰昌) (1945 卒)
 片寄 弘也 (2004 卒)
 勝村 (赤座) 眞知子 (1973 卒)
 叶谷 房子 (1998 卒)
 川合 大地 (1998 卒)
 川添 和明 (1995 卒)
 貴志 謙介 (1981 卒)
 木地 節郎 (1949 卒)
 北口 卓美 (1990 卒)
 西井 (小林) 理子 (2002 卒)
 坂部 誠治 (1991 卒)
 酒匂 幸樹 (2000 卒)
 島崎 郁司 (1996 卒)
 嶋野 浩一朗 (1997 卒)
 清水 究吾 (1998 卒)
 新谷 泰久 (1990 卒)
 鈴木 伸国 (1988 卒)
 田島 渡 (1948 卒)
 田辺 賢一郎 (1949 卒)
 都子 厘 (1940 卒)
 中村 尚弘 (2000 卒)
 中山 耕至 (1993 卒)
 那須 久代 (1988 卒)
 檜崎 (藤川) こず恵 (1998 卒)
 南部 一寿 (1999 卒)
 西尾 正隆 (1970 卒)
 西沢 仁晴 (1974 卒)
 西山 隆彦 (1995 卒)
 能勢 正寛 (1962 卒)
 野瀬 美咲 (2010 卒)
 福田 新一 (1971 卒)
 古川 昇平 (2006 卒)
 前田 奈実 (1999 卒)

松本 弘史 (1983 卒)
 御手洗 央治 (1993 卒)
 宮澤 博久 (2005 卒)
 山口 一郎 (1980 卒)
 山下 良 (1989 卒)
 山田 (児玉) 憲子 (1970 卒)
 山中 一高 (1991 卒)
 吉野 修司 (1995 卒)
 吉村 健志 (2002 卒)
 六嶋 美也子 (1993 卒)
 渡邊 克己 (2004 卒)

<オープンキャンパス：2012年度の 報告と2013年度のお知らせ>

2012 年 8 月に京都大学のオープンキャンパスが開催されました。文学部の見学・説明会もこの一環として、9 日に行われました。文学部の全体説明のあと、各自が希望する専修の研究室を訪問してもらいました。

2013 年度の京都大学主催の全学オープンキャンパスについては、
<http://www.kyoto-u.ac.jp/> をご覧下さい。
 文学部の見学・説明会は、8 月 9 日(金)の予定です。

地理学教室では、大学院の受験志望者や、中学高校の教員の方々、また、一般の市民の方にも参加して頂けるような見学会を 11 月 16 日(土)に開催する予定です。詳細な日程や参加申込の案内は、地理学教室のホームページ、

http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/
に掲載する予定ですので、ご覧下さい。

＜2013年度秋季地理学談話

のお知らせ＞

本年は、下記のようなプログラムを予定しております。ぜひお越しください。

記

日 時：11月16日（土）

午後1時—5時

場 所：文学部新館

◎教室見学会：午後1時より

◎OB 交流会：午後2時より

講師 福井 綾子氏（2003 年卒）

安形 俊太郎氏（2005 年卒）

（文学部新館 地理学実習室）

◎講演会：午後3時半より

飯田 耕二郎 氏（1969 年卒）

（文学部新館 第7講義室）

◎懇親会：午後5時より

（文学部新館 地理学共同研究室）

どうぞ、お気軽に教室をお訪ねいただき、アルバムをご覧くださいませよう、お願い申し上げます。

＜2013年京都国際地理学会議開催記念 「地図 温故知新」のご案内＞

文学部地理学教室が収集してきた古地図などを中心に、地図展が開催される予定です。酷暑の季節ではございますが、ぜひ足をお運びくださいますようお願いいたします。

期間：2013年7月31日～9月1日

料金：大人400円

会場：京都大学総合博物館

＜地理学教室所蔵の

写真資料について＞

地理学共同研究室や総合博物館地理作業室のロッカーの中に保管されていた地理学教室関係者の古い写真が数百枚あります。

卒業生の方々に見ていただき、写真に関する情報のご提供や、整理方法のご指示などをいただければと願っております。

☆一年あたり千円を目処として、それぞれの会員の方々に、談話会の運営経費へのご協力をお願いしております。随時、ご支援をお願いいたします。納入の際は、同封しております「郵便振替用紙」をご利用下さい。

京都大学文学部地理学談話会 会報 第 24 号

発行日 2013 年 5 月 15 日

発行者 地理学談話会

〒 606-8501

京都市左京区吉田本町

京都大学文学部 地理学教室内

TEL: 075-753-2793 (直通)

発行所 京都大学文学部地理学教室

URL http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/geography/geo-top_page/